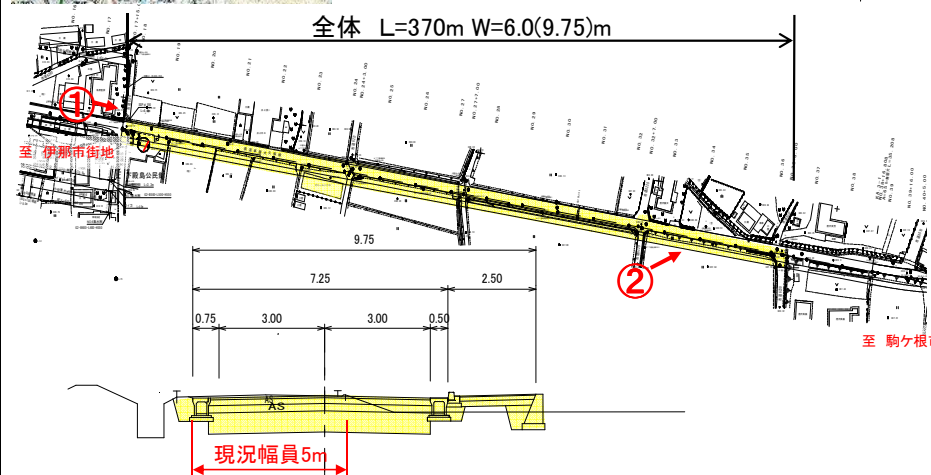


(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)車屋大久保線		
事業毎の通番	5	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	下殿島(しものしま)	
事業目的	(一)車屋大久保線は伊那市～宮田村を結ぶ道路である。当区間は歩道が未整備であり、道路幅員も4～5mであることから車のすれ違いにも苦労している。周辺には東春近小学校、春富中学校、東春近保育所、学童センター、児童クラブがあるため、車両交通の円滑化と歩行者の安全確保が急務である。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	なし					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:2,567台/日					
着手年度	平成30年度	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	平成35年度	費用対効果	1.6		国庫 其他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工程)	道路拡幅工 L=370m、W=6.0(9.75)m			160,000	144,000 16,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間・経費等の減少 通学路対策				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画交通量:2,567台/日 ○代替道路の有無:代替道路があるが安全性が低い ○医療・福祉・教育施設との連携:東春近小学校への一次アクセス ○交通結節点アクセス:富県・東春近地区循環バス路線 ○観光振興・地域の活性化:高遠城址公園へのアクセス			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:なし ○緊急輸送路の路線指定:緊急輸送路(2次) ○地域指定:東海地震防災対策強化地域			評価	B
	効率性	○費用便益費(B/C):1.55 ○事業期間:6年間 ○工法等の比較検討:コスト削減のための比較検討あり ○他事業との連携:なし			評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数:1件 自動車×自動車事故発生(H26) ○道路環境改善:通勤時間帯のすれ違い解消 ○歩道整備:歩道未整備区間に歩道の設置(伊那市東春近小学校通学路) ○現況の幅員、半径、勾配:車道幅員5.0m			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知(H27.9 地元説明会と地区回覧により広く周知) ○地域の取り組み:地元下殿島区、対策委員より強い要望あり ○地域の合意形成:対策委員、地元説明により、合意形成が図られている ○住民との協働:小学生を対象とした勉強会等を実施			評価	B
	部局意見	事業の必要性が高いため、平成30年度から事業化したい。			採択状況	総合評価
技術管理室意見	部局の意見を適当と認める。			O		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	・(一)車屋大久保線は伊那市～宮田村を結ぶ道路である。当区間は通学路交通安全プログラムに位置付けられているが、歩道が未整備であり、周辺には東春近小学校、春富中学校、東春近保育所、学童センター、児童クラブがあるため、早期の安全確保が求められている。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・H27.4 下殿島区地元役員、対策委員会説明会。 ・H27.6 東春近道路河川対策委員会委員総会。 ・H28.6 東春近(下殿島)道路河川対策委員会委員総会。 ・H29.6 東春近(下殿島)道路河川対策委員会委員総会。	
③事業説明等の経緯	・H27.4 下殿島区役員及び県道車屋大久保線殿島工区合同対策委員会説明会実施。 ・H27.9 当区間の設計業務について地元回覧。 ・H28.8 下殿島工事説明会。 ・H28.9～ 下殿島地権者個別説明会。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	・土羽構造を基本とする。	
⑥地域活性化への影響と配慮	・道路整備により、アクセス性の向上による地域産業へ支援効果が期待されるとともに、本事業により交通の円滑化が図られ、安全な通行が確保される。	
⑦その他	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 47' 54" 東経:E 137° 57' 39"